

地域研究センター通信

地域連携から研究の端緒を開き、明石地域、長田地域における当センターの活動・研究をご紹介します

2024・稲爪神社秋例大祭フィールドワーク報告

人文学部 准教授 三田牧

2024年10月13日、明石市大蔵谷の稲爪神社秋祭り本宮にて、人文学部の学生たちが神輿行列に参加させていただきました。神戸学院大学有瀬キャンパスは稲爪神社の氏子地域にあります。「在学中は学生たちも氏子」という宮司様の言葉によって、2004年から20年にわたり、このような機会をいただけてきました。

今年は、コロナや昨年のお天候による休止を経て久しぶりの学生参加となり、100人を超える学生たちが集まりました。神輿行列の参加学生や、宵宮や奉納芸の練習を観察した学生たちの感想を紹介します。



一稲爪神社秋祭りを通して一

矢嶋ゼミ 1回生女子

稲爪神社秋祭りに参加し、貴重な体験ができたと感じている。私は写真が趣味で地元の祭りもよく撮影するが、今回は例年とは異なり、地域の方と直接交流しながら撮影を楽しむことができた。獅子舞などの激しい動きを撮影するのは難しかったが、地域の方々と談笑しつつ満足のいく写真を撮ることができ、充実した時間を過ごすことができた。

私の住む高砂市では、毎年10月に秋祭りが開催される。小・中学生の頃に神輿の太鼓を叩いた経験はあるが、神輿を実際に担ぐのは今回が初めてだった。神輿は大人数で担いでもまだ非常に重く、掛け声に合わせて揺らすときには振り落とされそうになるほどの迫力があった。また、地域の方や神戸学院の学生たちと一緒に「よーいやさーじゃー」と大きな声を出すことで、一体感が生まれ、幼少期の記憶が鮮明に蘇った。

稲爪神社秋祭りを通して、沢山の貴重な経験ができた。また、私達が撮影した写真が記録として残り、祭りに関わる方々の一部になれたことを大変誇りに思っている。地域の歴史や文化に触れることのできた、有意義な1日だった。



大蔵本町町内会の詰め所で拍手をいただく

一稲爪神社フィールドワークを通して一

三田ゼミ3年 中岡明海

稲爪神社のフィールドワークを通して私は地域のつながりの大切さ、繋がりのあり方を学んだ。獅子舞の練習では、子供達が年齢の壁を気にせず教え合うことで伝統的かつより良い踊りを目指していた。また、神輿を担ぐ人たちはみんながみんなを知っていて、仲間で行事を盛り上げる一体感があった。宵宮では、(獅子舞の)踊り場の周りは子供達の親や、近所に住んでいる人たち、職場の人達などのコミュニティの場になっていることに気づいた。地域の繋がりが数十年前と比べると希薄化している今、地域の伝統文化を通して繋がりがあり続けている場所があることは大切なことだ。それは無くしてはいけない一つの文化であると思った。



獅子舞の練習をする保存会の子どもたち

一保存会の獅子舞練習を観察して一

三田ゼミ3年 綾部奈緒

私は9月29日、大蔵谷獅子舞保存会の練習を見学した。20時までの子どもの練習では、難しい足のステップも一生懸命見て覚え、楽しんで獅子舞を舞っていた。指導者の方が子ども一人一人にフィードバックをしている姿が印象に残り、大人になって自分なりの立派な獅子舞を舞える秘訣なのだと感じた。

(次頁へつづく)

今号の内容

稲爪神社秋例大祭フィールドワーク報告

三田牧……………①②

第7回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ開催、『アタシノアカシ』上演報告

中山文……………③

加古川エリア・地域協働研究

矢嶋巖……………③

シリーズ観測研究の報告

地域研究長田センター気象観測データ紹介

福島あずさ……………④

教員紹介

松村淳……………⑤

有瀬キャンパスで日本語学校留学生との交流活動報告

鈴木遥……………⑤

第8回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ開催報告ほか……………⑥

(前頁よりつづく)

見学中、獅子の頭の持ち方や芸の意味を教わった。はじめて持つ獅子の頭はずっしりと重く、頭を動かすだけでも難しいと感じたが、保存会の方々は、さまざまな獅子の仕草を見事に演じ分けていた。最も印象的だったのは、激しい動きの合間に獅子が呼吸する細かい仕草である。スピード感のある舞や大技を成功させるための体力や集中力だけでなく、役者さんのように獅子の本来の姿を表現する高い技術で見の人を楽しませるところが魅力だと感じた。

一西之組での獅子舞の練習を観察して—
三田ゼミ3年 矢野開人

2024年9月28日、稲爪神社秋祭りに向け行なわれていた西之組の獅子舞練習を、休天神社にて観察した。獅子の頭の角度や足のあげ方などが詳しく指導されており、大蔵谷の獅子舞の伝統を継承している場面を目にすることができた。また、女の子が獅子舞をしている場面があり、伝統を受け継ぎながらも、時代に合わせた新たな試みがなされていることがわかった。そして、練習の合間の聞き取り調査では、子どもたちが聞き取りに快く応じてくれた。舞の意味や、コツなどを詳細に聞き取ることができ、若い世代に獅子舞が正しく伝承されていることがわかり、伝統文化の継承がしっかりとされており、感動した。



西之組で聞き取りをさせてもらう学生

—「大蔵地区に改めて向き合って」—
矢嶋ゼミ 1回生男子

今回のフィールドワークを経験するまでにどのように大蔵地区に関わってきたかといえば、明石市役所に行くための

ルートの一つとして使ってきたことぐらいだ。しかし、フィールドワーク、そして秋祭りを大蔵地区で体験したことで、今まで知らなかった文化、歴史背景を学ぶことができた。

フィールドワークでは、街の中に何気なく建っている古民家が実は歴史が濃かったり、何のひねりもないように見える街が古い時代によく考えられて整備されたものだったり、深掘りすることで見えてくるものがあったし、秋祭りも、自分たちで屋台を担いだ時はもちろん、町内会で子どもたちが神輿を担いでいたり、地域の人たちと自分たちで大きな掛け声を出したときに、なにか強いパワーのようなものを感じたりすることができた。

この経験で、地域を守るとはどういうことかを考えさせられた。



敵灯屋台を担ぐ男子学生たち

—「大蔵地区の人たちの郷土愛」—
矢嶋ゼミ 1回生女子

稲爪神社秋祭りに触れ、特に印象に残ったことは、地域が一丸となって伝統を繋いでいこうとしていると感じたことである。神輿を担ぐまでの待機時間に多くのお話を聞かせていただいた。その中でも今年は6年ぶりの実施であるという話に驚いた。コロナ禍以前から台風などの影響により中止になっていたにも関わらず、多くの人に参加していることに感銘を受けた。私の地元では町内会ごとに小学生の親子が参加する秋祭り(神輿)があるが、コロナ禍以降実施しなくなった地域が増加した。このような経験から、大蔵地区の

方々の郷土愛をより一層強く感じた。

また、実際に神輿を担いでみて思ったことは楽しいということである。重たい、肩が痛いなどしんどいこともあったが、それ以上に大蔵地区の方の親しみやすさや声掛け、ゼミ生たちと共に活動できたことが心に残る良い経験になったと思う。



女衆神輿を担ぐ女子学生たち

【稲爪神社秋祭大祭写真】



1回生女子撮影

1回生女子撮影



1回生女子撮影



矢嶋巖撮影

第7回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェ 『抜き書き版・ロミオとジュリエット』公演

人文学部 教授 中山文&中山ゼミ 3 回生

10月26日(土)、明石市のあかし市民図書館研修室にて、中山文ゼミ生による『抜き書き版ロミオとジュリエット』を上演しました。本公演は地域研究センターとあかし市民図書館との共同開催でした。

中山ゼミは、今夏に稲爪神社で『ロミオとジュリエット』のリーディング公演を実施し、今回は、会場に合わせて演出をコンパクトに再構築しての上演となりました。パネルや机を舞台装置に利用して巧みに場面転換を行うなど、会場の設備を活用していたのが印象的でした。また台本を手演じた前回とは異なり、今回は台本なしでの上演に挑戦しています。こうした様々な工夫が功を奏し、前回よりコンパクトながらも洗練された舞台に仕上がっていました。



会場から温かい拍手をいただきました

舞台上演後はアフタートークを実施しました。まず司会役の学生と演出を担当した学生が登壇して演出の意図について語り、さらに観客席からの質問に答えていました。最後に中山文教授が登壇し、大学のゼミで演劇作品を作り上演するという取り組みの背景や意義について解説しました。

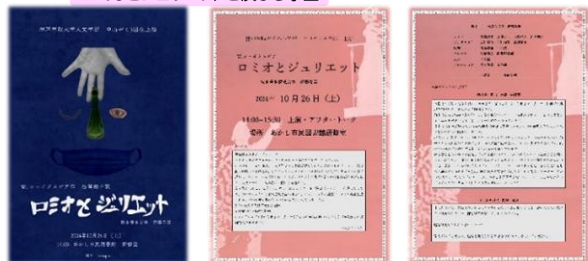
夏の舞台も見に来て下さっていた地域の方から、前回の舞台写真をプレゼントとしていただくといい予想外の場面も。上演を終えて緊張がほぐれたか、学生たちは笑顔で地域の方々のコメントを伺っていました。



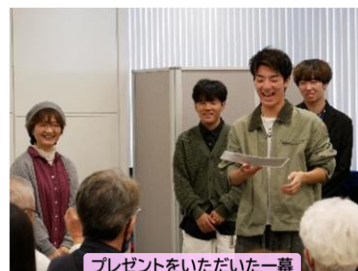
ロミオとジュリエットを演じる学生

予約で満席となった観客席の前に演技きった経験や、地域の方々から温かいコメントをいただいたことは、学生のさらなる成長の糧になることでしょう。

(報告:白方佳果)



←学生が制作したポスターとプログラム



プレゼントをいただいた一幕

学生演劇『アタシノアカシ』上演報告

2025年2月6日、神戸学院大学有瀬キャンパス「マナビホール」で、中山ゼミ3回生による「アタシノアカシ」公演が行われました。



「明石」をテーマにした学生のオリジナル脚本を上演する中山ゼミ「アタシノアカシ」シリーズ公演は、今年で8年目です。中山ゼミでは3回生全員が台本を書き、それをプロの劇作家の指導を受けて修正します。学生による読み合わせののち投票で選ばれた3本の脚本が、「アタシノアカシ」公演で上演されます。今年度は複数の脚本を書き上げた学生たちもいて、熾烈な競争になったようです。

投票を勝ち抜き上演されたのは、弾き語りの青年と少女の出会いから意外な結末を迎える『プロローグ』、海辺で過ごす友人同士のやりとりから平凡な日常の幸せを思い出させてくれるような『Johnny on the spot』、朝霧の喫茶店を舞台にした、しみりさせられるがコミカルな味わいもある『甘い記憶』の3作品です。上演前には学生2名による漫才も披露され、会場の笑いを誘っていました。

本公演は前期に実施された『ロミオとジュリエット』リーディング公演とは趣が異なり、脚本・音楽・演出等々、様々な面で学生たちの個性や若々しいセンスが遺憾なく発揮されている点がとくに印象的でした。

上演後は総合演出を担当した学生と、3作の作者であり演出を担当した学生の4名による、アフタートークが実施されました。脚本で表現しようとしたテーマや演出上の工夫などについて解説が行われ、会場からの質問にはユーモアを交えながら堂々と回答していました。

公演には、中山教授が本学で学生による演劇企画を開始した当初からご支援をいただいている桂迎教授(浙江大学)も駆けつけてくださり、舞台や学生たちの取り組みにコメントをいただきました。

会場は用意された座席がほぼ満席となり、50名を超えるというこれまでの公演で最大の動員数になりました。前期・後期の公演を成功させた経験は、学生たちのこれからの活躍に繋がることでしょう。

(報告:白方佳果)

加古川エリア 地域協働研究

西脇営農組合『コスモスまつり』に参加しました

人文学部 教授 矢嶋巖

11月4日(月)に、人文学部の専攻演習Ⅱ(3年次ゼミ)矢嶋ゼミ生のうちの7名が、加古川市西神吉町の西脇営農組合が行った収穫体験スタンプラリーイベント(コスモスまつり)の応援で、収穫体験参加者のための焼きそば調理や野菜販売を手伝いました。



子どもたちの熱い視線のなか、焼きそばをパック

このイベントは、兵庫県東播磨県民局加古川農業改良普及センターが、消費者と生産者の交流や農業地域の活性化を目的に開催し、東播磨地域に位置するJA兵庫南の農産物直売所である5つのふぁ～みんSHOPで農産物を販売している営農組合などが連携して実施したイベントです。

矢嶋ゼミでは、2011年から神戸学院大学地域研究センターにおける協働研究の一環として西脇営農組合と連携した協働研究を行っています。今年も西脇営農組合からの要請に応じて、協働の一環として応援に駆けつけました。

学生たちが心を込めてつくった焼きそばは大人気でした。残念ながら、天候の影響で収穫体験の目玉であるキャベツの生育が不調で、期待して訪れたお客さんたちへの説明にも対応しました。



野菜販売を手伝いました



学生がスタンプラリーの受付を担当

学生は、都市近郊農村で行われている農産物を活かした地域活性化の取り組みを現場で理解し、それぞれのテーマで地域の今後について考えていく卒業研究の参考にする材料を得ることができました。

地域研究長田センター気象観測データ紹介 (3)日最低気温

人文学部 准教授 福島あずさ

地域研究長田センターでは屋上に気象観測測器を設置し、気温、風速風向、相対湿度、雨量、日射量、紫外線A・B波、気圧の観測を行っています。前号から連載形式で、これまでの観測データを公表し、簡単な解説を加えた記事を掲載しています。第3回は日最低気温です。

表1 長田センターで観測した月別日最低気温 (2012~2020年)
単位 (°C)

日最低気温													年平均値
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
2012	-1.4	-3.5	0.6	2.9	9.7	18.7	20.9	23.9	18.5	10.6	4.7	-1.2	8.70
2013	-1.7	-1.3	0.8	5.4	7.5	18.0	24.6	22.5	-	11.5	3.2	0.0	8.23
2014	-0.6	-0.9	-0.2	3.5	10.9	18.8	20.4	21.5	17.7	9.8	6.7	-0.6	8.92
2015	-0.6	-1.2	-0.7	5.5	12.5	14.8	19.6	23.1	17.4	10.6	5.2	2.4	9.05
2016	-3.8	0.6	-0.2	5.8	13.2	15.1	22.4	21.2	19.4	10.6	6.1	2.1	9.38
2017	-2.6	-0.8	0.8	5.3	11.7	-	25.4	24.3	16.1	9.5	4.3	0.5	8.59
2018	-3.3	-3.1	1.9	4.4	10.9	16.1	21.9	21.0	16.5	12.5	5.8	0.1	8.73
2019	0.5	1.6	2.9	3.0	10.3	17.4	21.6	23.0	18.2	13.7	4.1	3.5	9.98
2020	2.1	-0.1	2.7	6.2	13.4	18.1	19.9	25.0	17.9	10.6	7.1	0.0	10.24

※2013年9月と2017年6月は測器のトラブルで欠測日が生じたため、値を掲載しない。それにともない一番右の年平均値を薄グレーで示している。

表1は、2012年から2020年までの各月で最も高かった日最低気温の値です。神戸地方気象台の月別値との相関は、0.999と高い値を示しており、解析等に使えると判断しました。

表1によれば、最高値は2020年8月の25.0°C、最低値は2016年1月の-3.8°Cでした。気象庁による日本の日最低気温の観測史上1位（最低値）は1902年1月25日に北海道旭川で観測された-41.0°C、最も高い値は2023年8月23日に新潟県糸魚川で観測された31.4°Cです。日最低気温の最高値は、年々更新を続けており、地球規模の温暖化

や、都市ヒートアイランド現象の影響などを受け、各地で高くなる傾向にあります。神戸地方気象台を見ると、1981年2月27日の-7.2°Cが最低値の記録、2019年8月13日の29.4°Cが最高値の記録です。最低値の上位10位までのうち、最も新しい記録は1981年ですが、最高値は上位10位中5つの記録を2024年の値が占めており、温暖化の傾向がよく現れています。

長田の最低値の記録は2016年1月25日の明け方5時に記録されており、神戸地方気象台でも3時に-3.8°Cを記録しています。20日ごろから強まった冬型の気圧配置の影響で、24日には沖縄本島（名護）では観測史上初めて、鹿児島県名瀬でも115年ぶりに雪（みぞれ）が観測されました。1月17日に発生した南岸低気圧によって、全国の広い範囲で暴風雪や突風、大雨、停電、交通機関の運休などさまざまな被害が生じており、その後23日、24日と立て続けに日本の南岸、三陸沖と低気圧が発生したため、冬型の気圧配置が強い状態で維持されたことが直接的な原因ですが、気象庁の異常気象分析検討会では、広域的には、偏西風がシベリア付近で大きく北に蛇行したこと伴って、シベリア高気圧の南東への張り出しが強まり、寒気の南下が進んだと分析されています。しかし、12月から1月上旬までの高温の影響で、この冬季（2015年12月から2016年2月）の平均気温は平年値を上回りました。

図1は、1月と8月の日最低気温について、長期変動を調べるために時系列変化と線形単回帰および回帰式を載せたグラフです。どちらの月も若干の上昇傾向が読み取れますが、冬季（1月）は2016~2018年にかけて大きくマイナスの年が続いており、顕著な上昇傾向を打ち消しています。地球温暖化により、全球的な平均気温は上昇傾向にあるものの、強い寒気が入ることがあり、IPCCの第6次報告書でも指摘されている気象の極端化（極端現象の増加）を示す事例とみられます。今回は平均風速を掲載する予定です。

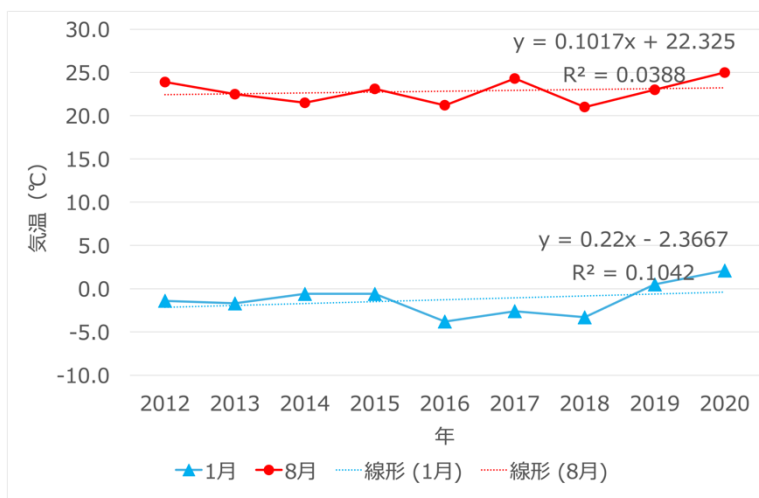


図1 長田センターにおける日最低気温の経年変化 (2012~2020年)
水色三角：1月、赤色丸：8月

[参考文献]

気象庁 (2016) 日々の天気図, No.168. (<https://www.data.jma.go.jp/yoho/data/hibiten/2016/1601.pdf>) .
 九州大学 (川村隆一研究室) 「2016年1月17日発生した低気圧」爆弾低気圧情報データベース (メガス torm情報データベース) . http://fujin.geo.kyushu-u.ac.jp/meteorol_bomb/view/detail.php?id=2016-01-17-09 (2025/1/7確認)
 気象庁 (2016) 「資料 (4) 2015/2016年冬の気象大循環場の特徴」異常気象分析検討会 (平成27年度定例会) の概要について. https://www.data.jma.go.jp/gmd/extreme/kaigi/2016/0307_teirei/h27teirei.html (2025/1/7確認)
 気象庁 (2022) 「IPCC AR6 WG1 SPM暫定訳」IPCC第6次報告書 (AR6) . https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/IPCC_AR6_WG1_SPM_JP.pdf , 8p.

Q. 研究について教えてください

A. 本学における私の主たる専攻科目は地域社会学・社会調査法です。地域社会学は文字通り地域を対象とした社会学の分野の一つです。私は建築学のバックボーンも有していますので、人間関係やコミュニティだけではなく、建築や都市といったハード面まで含めたオリジナルな地域社会学を展開しています。

本学で前期と後期で開講している地域社会学では、前期は人口動態や産業といった指標から地域を分析することを、後期は、まちづくりや景観といったテーマから地域を読み解いていく授業を実施しています。

Q. 地域との関わりについて教えてください

A. 2年生のゼミでは西区役所の伊川谷出張所を訪問したり、伊川谷に農園で開催された芋掘りイベントなどに参加したりするなどしました。地域社会学や実践演習では神戸市職員や地域おこし協力隊員を招いたゲスト講義を実施しました。神戸市の元町高架下の再開発のワークショップにも、毎回10名程度の学生と参加しています。

次年度から開講する松村ゼミでは、地域社会に学び、地域社会に貢献する人材の育成を目的に掲げています。具体的には18名のゼミ生を3班に分けて、それぞれ企業や役所と連携した実際のプロジェクトに年間を通じて関わっていくことも検討しています。このような教育目的の実現のために市役所や県庁の職員、地域の企業の方々にも様々なかたちで教育に関わっていただく予定です。



2024年度第8回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェにて『近代建築の保存と再生を考える』講演の様子

開 催 報 告 11.19 神戸で日本語を学ぶ留学生を有瀬キャンパスに招待し、交流会を行いました



人文学部 講師 鈴木遥

2024年11月19日、人文学部の実践演習II(担当:鈴木遥講師)で、神戸市で日本語を学ぶ留学生を有瀬キャンパスに招待し、交流会を行いました。

鈴木ゼミでは、神戸の多文化について理解することを目的とし、2023度から神戸新長田日本語学院との交流活動を行っています。交流活動はゼミ生が主体となって準備を進めています。今回は、子どもの遊びを伝えることを目的に、けん玉遊びとドッジボールを行うことに決め、手順や説明方法を練習してきました。

交流会の前半は、神戸新長田日本語学院の留学生によるダンスとポスター発表でした。留学生は自国の文化について日本語で作成したポスターを手に、日本語で説明をしました。ゼミ生はそれをじっくりと聞き、質問をしました。留学生の多くは来日して半年ほどでしたが、どの方

も問題なく会話ができ、ゼミ生はびっくりしていました。



続いて、ゼミ生によるけん玉遊びとドッジボールの企画を実施しました。ゼミ生は留学生と一緒に遊びながら、遊び方やコツを言葉で説明するよう工夫していました。

けん玉については、ゼミ生は膝をうまく使って身体全体で玉を持ち上げあることを伝えようと思いますが、最初はうまく伝わりませんでした。そのうちに、留学生がゼミ生のやり方を見ながら少しずつコツを理解していました。

ドッジボールの説明はデモンストレーションを交えて行いましたが、なかなか理解してもらえませんでした。ドッジボールをする中で、ゼミ生は「ボールがあたったから外へ出て」「外から中にいる人にボールを当てて」などと留学生に適宜言葉をかけてルールを伝えていました。



交流会はあっという間に終わりました。短い時間でしたが、留学生と言葉を交わし、一緒に活動したことで、留学生とやさしい日本語を使ってコミュニケーションをとるという貴重な経験をしました。そして、何より、一緒に楽しい時間を共有することができました。今回の交流会は、ゼミ生にとって、多様な文化について体験を通して学ぶいい機会となりました。



地域研究センター
ニュース

報告・2024年11月6日

第8回大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェを開催しました

人文学部の松村淳講師が『近代建築の保存はなぜ難しいのか』と題し、各地に残る近代建築の紹介と保存の困難さについて講演しました。



参加者とのやり取りを行いながらの講演は、参加者の探求心を呼び

起こし、数多くの意見や質問があり、それぞれに近代建築の保存について思いをはせているようでした。

←講演要旨等の詳細はこちら

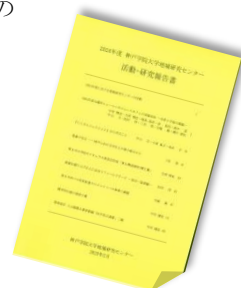


予告・2025年2月末

2024年度地域研究センター活動・研究報告書を刊行

2025年2月下旬に下記の内容(副題略)で報告書を刊行する予定です。センターの活動や研究内容に関して幅広い論考を収録しておりますので、広く手にとっていただければ幸いです。

- ・2024年度大蔵谷ヒューマンサイエンスカフェの実施状況
- ・『ロミオとジュリエット』から学ぶこと
- ・現場で学ぶ—明石と神戸における学生らの取り組みから
- ・明石市小学校カリキュラム委員会作成「単元構成資料1郷土篇」
- ・地域を盛り上げる人に出会うフィールドワーク
- ・明石市内バス利用促進プロジェクトへの参画と課題
- ・播州明石城十景詩小箋



出版物
ご案内

地域研究センター
出版物の一部です→

詳細は↓をご参照ください



2023年度活動研究報告書



播州名所巡覧図絵 明石郡の訳注



「アタシノアカシ」戯曲集

＜出版物をご希望される場合は、下記地域研究センター事務局までお問合せください＞

明石ハウス 〒673-0871 明石市大蔵八幡町5-23

開館時間：木・金 9時-16時 ※開館予定は変更になる場合がございます

Tel 078-995-5414



明石ハウスは、神戸学院大学が大蔵八幡町にお借りしている研究活動拠点です。建物(大塩邸、明治30年代後半築)は、明石市の都市景観形成重要建築物に指定されています。



活動拠点

地域研究長田センター (旧二葉小学校) ふたば学舎3階

〒653-0042神戸市長田区二葉町7-1-18

地域研究長田センターは、地域と協働した実践的な研究を行う拠点として2010年11月に開設されました。開設時に地震・気象計測システムを設置し、今日まで観測を続けています。データ研究の一部を神戸市委託事業「異常高温対策に関する調査報告(2018年度)」に活用しました。また、人類学や地域研究、社会学などを履修する学生の長田地域におけるフィールドワーク活動も行われています。



神戸学院大学 地域研究センター通信

〒651-2180神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL : 078-974-4232 FAX : 078-974-4258

https://card-kobegakuin.jp E-mail : frb@human.kobegakuin.ac.jp

発行 : 2025年2月 発行 : 神戸学院大学地域研究センター (有瀬キャンパス3号館6階)

